

まつのやま学園運営協議会 第3回会議録

令和8年3月10日(火) 14時00分～15時00分

会場：会議室 進行：志賀会長 記録：柳教頭

1 開会のあいさつ（志賀会長）

2 学園のあいさつ（渡邊学園長）

- ・ 2月10日に学校管理下での児童の事故の状況と事故後の経過について報告
- ・ 創立10周年を迎えるまつのやま学園の成果と課題について

来年度、本学園は創立10周年を迎えます。平成29年の開校以来、地域とともに歩み、地域に育てていただいた9年間でありました。

【知】の面では、小中一貫教育の強みを生かし、少人数だからこそできる丁寧な学びを積み重ねてきました。とりわけ、森の学校キョロロとの博学連携は、本学園の大きな特色です。専門的な知見に触れながら松之山の自然を探究する学びは、子どもたちの問い続ける力を育てています。

【徳】の面では、異学年交流や地域行事等への参加を通して、思いやりや責任感を培ってきました。地域の皆様に日常的に見守られ、声をかけていただく環境そのものが、子どもたちの心を育てています。

【体】の面では、雪里ならではのスキー学習や体力づくりを通して、粘り強さや挑戦する心を養ってきました。地域コーチ、関係者の皆様のご支援は、本学園の財産です。また、朝読書・学習ではなく、朝の運動「いきいきアップ」が生活に活力を生み出しています。

【地域】本学園の教育を支えているもう一つの力が、「潜在的カリキュラム」、すなわち学校生活や地域との関わりの中で自然に育まれる学びです。雪深い冬の暮らし、地域の方々との何気ない挨拶や会話、世代を越えたつながり、そうした日常が子どもたちに感謝の心、郷土への誇りを育てています。

一方で、課題も明確です。児童生徒数の減少の中で、多様な価値観に触れる機会をどう確保するか。雪里留学（藤倉ハウス入寮）のさらなる推進並びに個に応じた多様な学び・支援をどう充実させるか。持続可能な教育体制をどう築くか。また、教員の働き方改革や部活動地域展開も今日的な課題です。次の10年を見据え、真摯に向き合うべき課題です。

まつのやま学園は、『地域＋自然＝学びのステージ』であり続けたいと考えています。知・徳・体を柱に確かな教育活動と、地域が育む潜在的な学び、その両輪を大切にしながら、「ENJOY & CHALLENGE」の精神のもと、教育目標「生き生きとした子ども」の育成と子どもたちの可能性を広げてまいります。

3 協議

(1) 後期の学校評価について ⇒承認

① 「まなび」学力向上

【成果】授業では、進んで考えや思いを伝えている。話し合い活動やICTを活用した意見交換（対話のある学び）を重視した指導をしており、今後も継続していく。

【次年度の取組】

家庭学習の充実が課題である。家庭学習の様子を児童生徒で共有したり、学習強調週間に家庭学習について考える機会を設定したりするなどし、家庭学習の向上を図っていく。

② 「からだ」健康・体力づくりの推進

【成果】地域の行事などへの積極的な参加や、いきいきアップ（朝の運動）の継続、体育授業の改善などを通して、体力向上や健康維持に対する子どもの意識が高まっている。メディア講演会を家庭教育充実部会と協賛で実施できた。

【次年度の取組】各家庭でメディア利用時間を見直すよう「まつのやま生き生き週間」などの機会を

利用し、働きかけを行っていく。

③ 「ゆめ」不登校の減少・いじめ防止についての取組

【成果】全体的に児童生徒の評価が高く、自分の役割を果たして前向きに生活し、温かな人間関係づくりに努めている。

【次年度の取組】人間関係づくりの自己肯定感を高める子どもがいる一方、人間関係づくりで評価の下がった児童生徒もあり、個々の支援を大切にしていく。

④ 「きずな」特別支援教育の充実

【成果】子どもは互いの違いや個性を大切にし、思いやりをもって接している。

【次年度の取組】特別な支援が必要な子どもを早期に集約し、対応を行っていく。特別支援教育にかかわる研修会を、保護者も参加できるようなテーマ・日程での実施を検討する。

<質疑・応答>

質問) 家庭学習の様子、工夫している内容について教えてほしい。

学園) 家庭学習充実に向けて、授業と連動させる仕組みの工夫と、やり方を工夫している子どもの情報を共有する2点についての取組を考えている。

意見) 自主的に家庭学習を行っている子どもの話も聞くので、しっかりやっている子どももいる。工夫して家庭学習をしている子どもたちのやり方を共有し合うことで家庭学習の意欲を向上させる方法もある。

⑤ 令和8年度の学校運営について(大きな変更及び改善点)

教育課程＝学習指導要領に定められた年間授業時数の確保をしつつ適正な授業時数に修正する。

そのため、校時表、部活動、下校時刻等の教育課程を検討する。

学習指導＝スキー学習の期間及び内容の検討。児童生徒及び保護者の意識調査をもとに、期間短縮及び活動内容を検討する。

部活動・課外活動＝教職員私有車使用の児童生徒送迎については、R8は、部活動ごとに、タクシー利用、活動場所の検討、保護者協力、部費徴収等を検討し、顧問が自家用車で児童生徒を同乗した送迎を行わない。

<質疑・応答>

質問) スキー授業の見直しはどこから声が上がったのか。

学園) 主に校内からで、9年生のスキー学習の期間等について検討していく。

質問) 部活動の送迎問題は、タクシーでの送迎など金銭的にも難しいと思われる。

学園) 活動場所の検討や保護者の協力などを得ながら進めたい。

(2) 3部会からの報告

家庭教育充実部会

① 実施内容

- ・メディアコントロール「いきいき週間の取組」について、1月3回目を実施した。「早寝、早起き、メディアコントロール」の取組結果の報告があった。

② 今後の課題

- ・アンケート等を実施し、様々な意見を吸い上げ、保護者がより参加しやすい講演会の在り方や、テーマなどを検討していく。

学園教育充実部会

① 実施内容

- ・2月24日に各学年の1年間の成果をまとめた「まつのやまタイム」の発表があった。

② 今後の課題

- ・年度当初の企画段階で、担任と共同推進委員が目標を共有し、年間を通した日程と準備内容を具体的に話し合う。また、年度の途中で進捗状況の確認や中間評価をし、その後の活動を修正する。

学園づくり部会

① 実施内容

- ・ 12月以降の地域連携・協働、地域交流事業についての活動報告があった。

② 今後の課題

- ・ 雪里留学（藤倉ハウス）の推進、移住促進に係る市及び学園の情報発信の工夫
- ・ まつのやま保育園との連携継続
- ・ 学園と自然・地域との連携・協働のさらなる推進
- ・ 部活動地域展開に向け、地域の受け皿拡大、指導者確保

<質疑・応答> なし

(3) 令和8年度学園経営方針およびグランドデザインについて ⇒承認

- ・ 令和8年度学園経営方針について変更はなく、今年度のもの、大切にすべきものを丁寧に進めていく。チャレンジすることを大切に、子どもを真ん中にして活動を地域に広げていきたい。
- ・ グランドデザインについて、次年度十日町市の教育の重点が変更されるが、それを基に1年間かけて見直していく。

<質疑・応答> 意見なし

(4) 令和8年度まつのやま学園CS組織と活動について

<質疑・応答> 意見なし

(5) その他

- ・ 令和8年度学校運営協議会委員の選出について
- ・ 令和8年度年間行事予定
- ・ 創立10周年記念事業について
- ・ その他、意見交流

<質疑・応答>

質問) 児童の事故について、原因と再発防止について説明してほしい。

学園) 教職員間に事前の立ち入り禁止区域の設置と教師の適切な監視場所、危険を想定した教師の目視等が徹底されていなかったため、管理体制が不十分であり、児童を危険箇所へ侵入させてしまった。再発防止として、活動する前に十分に注意喚起を行うこと、危険箇所を必ず確認すること、活動時の管理体制を複数人配置すること。雪山からのそり遊び等は行わないよう指示している。安全・安心な学園経営に努める。

質問) 授業はなんの授業だったのか。

学園) 理科の授業であった。冬の自然観察として外に出た。授業の後半に遊ばせてやりたいという気持ちがあったのだが適切ではなかったと反省している。

質問) 10周年事業の1次案内が地域に配付されたが、周知という意味なのか、地域で参加したい人は誰でも参加できると解釈していいのか。2次案内はどのようにするのか。

学園) 広く地域の方から参加していただく。地域の方の中には1次案を見て参加したいと思う方もいると思われる。地域の多くの方から参加できるように2次案内をする。

4 閉会のあいさつ（日木副学園長）

令和8年度 まつのやま学園経営方針（案）

教育目標

生き生きとした子ども

まつのやま学園のモットー

ENJOY & CHALLENGE

重点目標

- ・ 自己や地域を知り、夢や希望をもち、未来を切り拓く子ども
- ・ 仲間よさに学び、関わり、つながりを大切にできる思いやりのある子ども
- ・ 自ら学び、考え、粘り強く責任をもつものごとに取り組む子ども
- ・ 地域の自然や歴史・文化に学び、ふるさとを大切にする子ども

目指す学園像

- ・ 「子ども」が、みんな仲良く元気よく、何事にも挑戦できる学園
- ・ 「保護者」が、子どもを通わせてよかったと感じる学園
- ・ 「地域民」が、誇りに思い、応援したい、協働したいと感じる学園
- ・ 「教職員」が、誠実に、謙虚に、協働的に目標の具現化を図ろうとする学園
(子どもとともに)

基本方針

- 学園と地域とで創る小中一貫教育の推進
- 義務教育9年間を見通した系統的な指導
- 4・3・2制（3教育期）と6・3制の融合
- 中学部教員の専門性を生かした小学部への乗り入れ授業
- 小中教職員の相互交流による異校種理解
- 小中連携による生徒指導等の諸問題に対する迅速かつ組織的な対応
- 地域と協働する「まつのやまタイム」（生活・総合）を中核とした教育活動
- 外国語活動の充実とE+タイムの推進
- 地域とともに創る特色ある教育活動の展開
(山菜採り、野鳥の会、湯鳥駅伝、婿投げ・すみ塗り、スノースポーツ、部活動、外部講師招聘)
- つくし会（児童生徒会）活動と縦割り班活動の充実
- 雪里留学、学区外・地域外からの児童生徒の受入体制の整備促進
- 全国の小中一貫小規模特認校との情報交換及び交流
- 複式学級に係る教育活動及びカリキュラムの研究と展開
- ◇ 教職員の心身の健康の保持増進を図るため、関係法令及び国の指針に基づき、業務量の適切な管理と長時間勤務の是正を推進

令和8年度
まつのやま学園
グランドデザイン
(案)

新潟県学校教育重点目標
ふるさとへの愛と誇りを胸に、夢や希望を
持って粘り強く挑戦し、未来を切り拓いて
いける、たくましいひとづくり

十日町市学校教育重点目標
ふるさとに遊ぶ。共に生きる。
自ら創る。



教育目標

生き生きとした子ども

ENJOY & CHALLENGE

< からだ >

体づくり

- 健康で充実した生活の基礎を築く心身の育成
- ・ 楽しく保体やスポーツに親しむ活動の推進
- ・ 地域保護者と共に望ましい生活習慣を考える

< まなび >

学力向上

- つながる・つなげるから生まれる深い学び
- ・ 自分の学びや思考を確認できる授業実践
- ・ 保護者との連携による家庭学習の定着

< ゆめ >

いじめ・不登校

- 安心・安全な生活環境から生まれるあたたかな生活
- ・ WEBQUを活用した自己有用感、肯定感を高める活動
- ・ 全教職員で子どもを支える指導体制

< きずな > インクルーシブ

- 平等に教育を受ける権利を保障する教育理念
- ・ 教育の土台となる総合支援教育の充実
- ・ すべての人が多様性を尊重する社会の実現



小中一貫と4・3・2制の学び 全校縦割り班 乗り入れ授業 E+タイム
地域・保護者との協働活動(行事) まつのやまタイム 読み聞かせ スノースポーツ

学校運営協議会 PTA 保護者会 地域住民 学校後援会 関係諸団体
協働推進委員 「森の学校」キョロロ 雪里留学 部活動支援スタッフ

雪里の特色を生かし、地域と共に歩む学校